



# あした 未来へつなぐ

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

## 着雪による視認性不良を解消！ 鉄道信号機の防雪フードによる冬期対策



R北海道では、あらゆる側面から列車の安全・安定輸送の実現に取り組んでいます。とくに、冬期間は降雪の影響による輸送障害が発生しやすいため、車両だけでなく、鉄道設備についても北国ならではの対策を講じ、各種トラブルの軽減に努めています。

その一つが、信号機防雪フードです。線路上を走行する列車も、信号機によって安全走行が保たれています。列車の運転士は各所に設置された信号機を見て、速度調節や停止など、適切な運転を行い、安全輸送を確保します。そのため、独自に開発した信号機

防雪フードを導入し、冬期間に頻発する視認性不良等の解消を図っています。

現在、北海道では二種類の信号機防雪フードが使われていますが、列車の通過時に四枚の板が揺れる力を利用して雪を振り落とす「段差式防雪フード」が、冬期対策として大活躍しています。



左が従来型防雪フード、右が段差式防雪フード

この段差式防雪フードは、従来型と違って、三角屋根根で中央に仕切りがあるため、雪庇(※)がでにくいのが特徴です。また、ポリカーボネートと呼ばれる衝撃強度にすぐれたプラスチック製の板を四枚使用し、それぞれ段差をつけることで、雪がつく面積を最小限に抑えています。開発のコンセプトは、「電気などを使用しない」「動力を使わなない」「信号機の現示がすべて見えなくても、一部は確認できる」の三つ。令和元年十一月末



冬期間は吹雪によって信号機にも着雪

日現在、道内全域に四百九個の段差式防雪フードが設置されています。平成二十四年には特許も取得しました。この画期的な信号機防雪フードの導入によって、吹雪でも信号機の視認性を維持でき、なおかつ着雪を取り除くための作業を軽減するなど、大きな成果を生み出しています。JR北海道では今後も冬期間における輸送障害の抑制に向け、安全・安定輸送のための取り組みによりいっそう力を入れていきます。J

(※) 屋根などの風下側に庇(ひさし)のように張り出した雪。